

第3学年 図画工作

第3学年の学習到達目標

- (1) 進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。
- (2) 材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。
- (3) 身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取るようにする。

第3学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	わたしの顔	●水彩絵の具の扱いに親しみながら、色をつくることを試み、表すことを楽しむ。	○絵の具の使い方や、色のつくり方を覚えて、形や色を考えながら絵に表す。
	切ってけずって	●切り糸やかきべらの扱い方に慣れ、その効果を生かした世界を粘土でつくる。	○粘土のかたまりを切り糸で様々な形に切ったり、かきべらで削ったりして楽しむ。 ○切ったり削ったりした形を組み合わせ、その形を生かして、楽しい作品をつくる。
	虫さんランド	●友人と協力して、粘土の特徴を生かしたり、自然材を効果的に使ったりしながら工夫して表す。 ●友人と作品を見せ合いながら、どのように用具を使用したかとらえ、よさや面白さを感じ取る。	○どのような虫の家や遊び場をつくるか、グループで話し合う。 ○食堂、寝室、勉強部屋、お風呂場、遊び場等、思い付いたものを、粘土と自然材を使い、友人と協力してつくる。 ○でき上がった秘密の遊び場について発表し合う。
	あのときをわすれない	●毎日の生活の中で見たり感じたりして心に残った出来事を絵に表す活動を楽しむ。 ●表したい出来事を思い出し、表したい場面の形や色などについて考える。	○自分の日々の生活を振り返って、自分自身が見たり感じたりして心に残った出来事を思い浮かべる。 ○そのときの心情が伝わるように形や色を考えて絵に表す。
	自然からのおくりもの	●自然の材料や場所を基に、思いに合った活動をする。 ●協力してつくり、置いてみたい場所を選び、みんなで形や色を楽しむ。	○活動場所を見て回り、いろいろな材料を使ってつくれそうなものについて話し合う。 ○身近にある自然の材料を探しながら、みんなでつくる。
	広がれつながれ／ふくらめモコモコ	●ふくらませたり、つなげたりしながら、つくりたいものや場所を思いつく。 ●ふくらませて、みんなで色の組合せ方や大きさを感じ取る。	○つなげたり、ふくらませたりして、つくりたいものを思いついでいる。 ○つくったものの形や色、大きさなどのよさや面白さを感じ取っている
	大すき自分の線と色／ひとつでクレヨンカラフル絵のぐ	●どのような形の線が面白いのか、どのような色が合うかを考える。 ●様々な形の線をひいたり、絵の具を混ぜたりするなど、試行錯誤しながら工夫して表す。	○水彩絵の具の基本的な使い方を確かめる。 ○一筆書きでかいた形に好きな色を塗ったり、色づくりをしたりして、水彩絵の具の扱いに親しむ。 ○隣に塗った色と合う色はどのような色か考え、色づくりを試しながらかく。
後期	ものがたりのせかい	●物語やお話に登場する人やものなどから、楽しんで想像を広げて絵に表す。 ●絵に表したい場面の思いや様子を、自分なりの表し方で工夫する。 ●自分の作品の工夫したところや、友人の作品の素敵などところをとらえる。	○物語の中でどこが一番好きな場面だったかを考えたり、友人と話し合ったりする。 ○好きな場面がどのような様子か想像して、どんなふうに表示したらよいか考えながら絵に表す。 ○自分の作品の工夫したところや友人の作品の素敵などところを話し合う。
	楽しく使おう	●使う場所や用途などを考えながら、生活の中で使える小物入れなどをつくる。	○空き容器に紙粘土をつけて、生活の中で使うものをつくる。
	やさしいモンスター	●やさしいモンスターの姿や特徴を想像し、紙粘土や芯材を用いて立ち上がった立体として表す。	○ストローやモールを芯にして、立体的なモンスターをつくる。

ざいりょうからひらめき	●様々な材料の形や色などをとらえ、組み合わせたり、加工したりしてイメージをふくらませ、絵に表す。	○集めた材料を並べ感触を味わいながら特徴をとらえる。 ○材料を組み合わせたり、操作したりしながら、表したい絵を思いついてかく。
はんをつかって	●材料を生かして版をつくり、刷り方を工夫したり、かき加えたりして、想像したことを紙版に表す。	○版づくりや刷り方などの方法を知り、版に用いる材料の生かし方などを考え、版をつくり、刷る。 ○他の描画材でかき加える。
トントンサクサク木の名人／トントン名人	●金づちを使う活動を楽しみながら、木切れや枝を使って、つくりたいものを考え、つくり方を工夫して表す。	○金づちの扱い方、釘の打ち方を知り、作りたいものに合わせて、釘の打ち方や並べ方、木切れのつなぎ方を工夫する。 ○自分や友人の作品のよさについて話し合う。
トントンサクサク木の名人／サクサク名人	●小刀を使う活動を楽しみながら、枝や木の棒を削ってつくりたいものを考え、つくり方を工夫して表す。	○小刀の正しい使い方を知り、安全に気をつけながら枝や木の棒を削り、作品をつくる。 ○斜めに削ったり、模様を削ったりしながら削る楽しさを感じ、形を工夫していく。

評価の観点・方法

<p>(1) 評価の観点 それぞれ学習を進める中や学習後に評価します。</p> <p>【造形への関心・意欲・態度】 自分の思いを表す体験を深めることに関心をもつことやつくったものなどに関心をもってみるなど、進んで造形表現活動を楽しみ、その喜びを味わおうとする。</p> <p>【発想や構想の能力】 見たことや感じたことなどをもとに想像力を働かせ、豊かな発想をしたり、つくりたいものの美しさや用途を考えるなど構想したりする。</p> <p>【創造的な技能】 手を十分働かせたり、体全体の感覚を生かしたりしながら、つくりだす能力などを働かせて、自分なりの技能や表し方を工夫する。</p> <p>【鑑賞の能力】 自分たちの作品や身近にある作品などのよさや美しさ、感じの違いなどに関心をもって見る。</p>	<p>(2) 評価の方法</p> <p>① 学習への関心・意欲や活動過程における発想力や構想力の重視 これまで作品や技能を主に重視してきましたが、材料集めやアイデアのよさ、材料のよさや美しさなどを考慮した構想力を重視して評価します。</p> <p>② 多面的な評価 作品だけでなく、行動観察や毎時間の伸び、自己評価や相互評価、疑問や願いなど様々な面から評価します。</p> <p>③ 自己評価・相互評価の重視 学習の仕方や作品の完成度など、児童が評価したものを重視します。また、友達のよさを認め合う態度やかかわりも評価します。</p>
--	---

特色ある学習方法

<p>(1) 身近にある自然物や人工材などに進んで働きかけ、その形や色などの特徴から自由に発想し、体全体を働かせ思いのままに進める造形遊びをします。</p> <p>(2) 初めに表したいことやつくりたいもののイメージや構想があって、それをもとに材料や方法を選び、描いたりつくったりする表現活動を行います。</p> <p>(3) 創造されたもののよさや美しさなどに対する共感やあこがれの感情に基づいて、ものや人との様々な関係を積み上げることで、感じ方や見方を深めていく鑑賞活動を行います。</p>

使用教材等

<p>○ 教科書 「図画工作3・4上」(日本文教出版)</p> <p>○ 材料としては、木切れ、棒、段ボール、厚紙、空箱、空き容器(ペットボトル、カップ、トレー)、布、紙、ひも、小石、貝殻など、身近にある物もふくめて使用します。</p> <p>○ 用具としては、小刀、金づち、くぎぬきなどのほかに、前学年までに使用した水彩絵の具、カッターナイフ、粘土、クレヨン、パス、はさみ、のりなどを使用します。</p>

留意事項

<p>(1) 子どもたちは、目の前に材料や用具があると、「触ってみたい」「使ってみよう」という欲求や好奇心を働かせます。そして、ものに働きかける経験から感じ取った意味を組み立てて、自分なりの感じ方や見方をもつようになります。そうする過程では、自分の存在を感じつつ、新しいものや未知の世界に向かう楽しさを味わうことができるのです。そんな頼もしい子どもたちに育てていくために、手を働かせてものをつくる機会を豊かに保障してあげてください。</p> <p>(2) 身近な材料(ペットボトル、トレー、カップ、ビニール袋、新聞紙、箱など)を使用し、造形教育を行います。学年だよりなどで事前にお知らせしますので、準備をお願いします。</p>
